

- この製品の施工には、電気工事士の資格が必要です。
- 施工前に必ずこの説明書をお読みください。
- お客様に製品説明をしていただき、必ず取扱説明書をお渡しください。

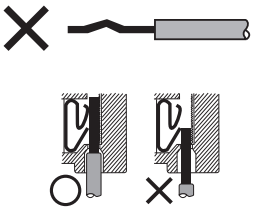
配線器具にも寿命があります。取付場所や使用状況によって異なりますが、10年※を超えたものは、特に点検が重要です。※：製品の保証期間ではありません。

単独では使用できません。
熱線センサ付自動スイッチ(親器)(WTK248105など)と組合わせて
ご使用ください。

安全上のご注意 必ずお守りください

警告

- 子器配線を地絡させない
焼損、発火のおそれがあり、火災の原因になります。
- 曲がったり、傷ついたり、変色した電線は使用しない
発熱して火災の原因になります。
- 結線するときは、電線を奥まで確実に差し込む
差し込み不十分な場合、発熱するおそれがあり、焼損による火災の原因になります。



施工上のご注意 故障の原因になります。

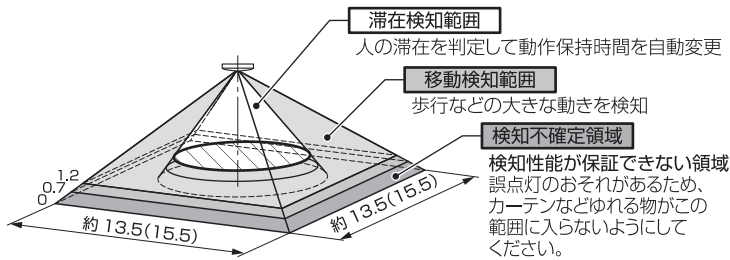
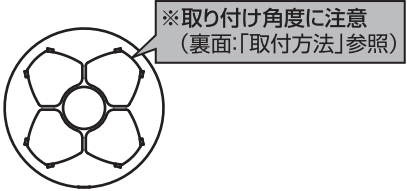
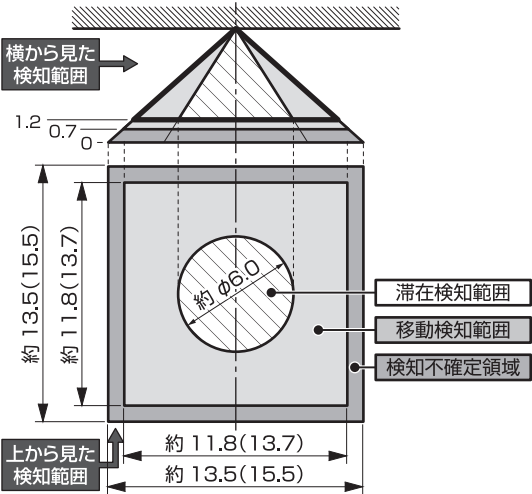
1. 誤結線をしないでください。
再使用できなくなります。
2. 線間絶縁抵抗測定では、この製品をはずしてください。
※電線(電路)と大地間は取り付けたままでできます。

検知できる範囲

※手の動きが検知できるように床上より0.7 mの高さを目安に設定してください。
イラストはすべて天井高さ6 m(感度切替:標準)の場合です。

◆施工条件の詳細は、当社ウェブサイトにごアクセスいただき商品仕様書をご覧ください。

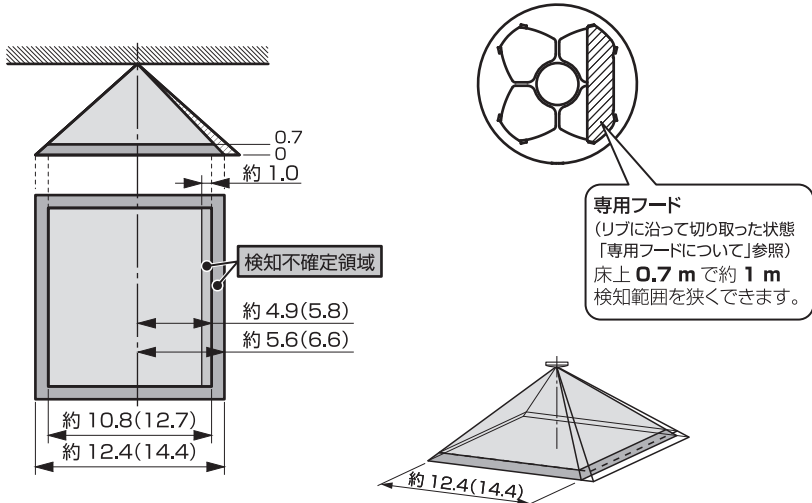
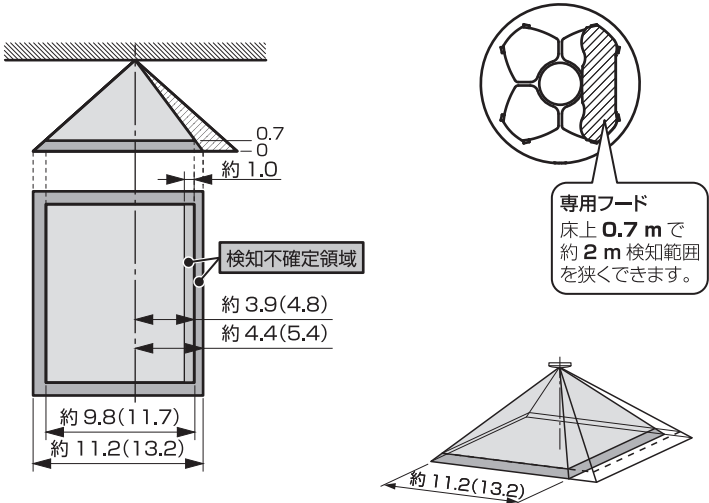
※()内寸法は、検知範囲の外側ですが、弱い検知能力がありますので、誤点灯のおそれのある物に注意してください。



感度切替	天井高さ	滞在検知範囲	移動検知範囲	検知不確定領域
低	3	約φ2.2	約5.1×5.1	約6.8×6.8
	4	約φ3.5	約7.3×7.3	約9.0×9.0
	5	約φ4.7	約9.6×9.6	約11.3×11.3
標準	6	約φ6.0	約11.8×11.8	約13.5×13.5
	7	約φ7.2	約12×12	約15.8×15.8
	8	約φ8.5	約13×13	約18×18
高	9	約φ9.7	約14×14	約20.3×20.3
	10	約φ11.0	約15×15	約22.5×22.5

- 専用フード(付属:1枚)で、検知範囲を制限することができます。

※カーテンなどゆれる物が検知範囲に入の場合や、検知範囲を狭くしたいときなどに使用してください。

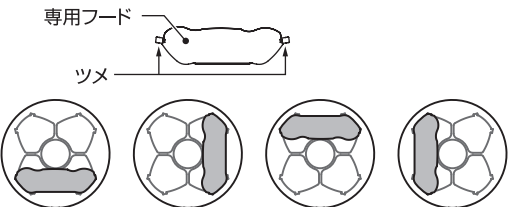


【ご注意】専用フードを取り付ける方向から出入りする場合は、リブに沿って切り取ってください。
滞在検知が働き、動作保持時間が延長されることがあります。

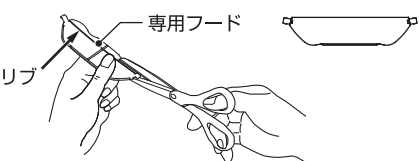
■専用フードについて

※専用フードの取り付け、取りはずしは必ずプレートをはずして行ってください。

- 4か所に取り付け可能です。
※複数重ね合わせることはできません。

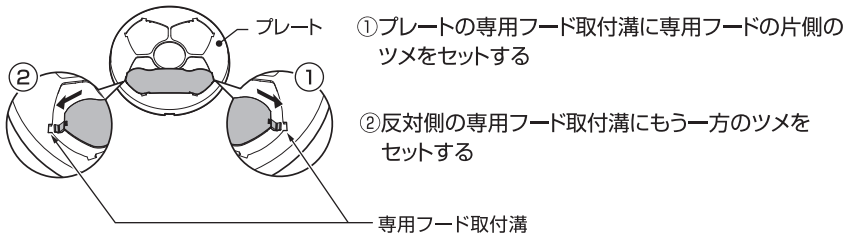


- 検知範囲の幅を広くしたい場合は、専用フードを
リブに沿ってはさみなどで切り取ってください。



※ツメを折らないように注意してください。

専用フードの取付方法



配線図

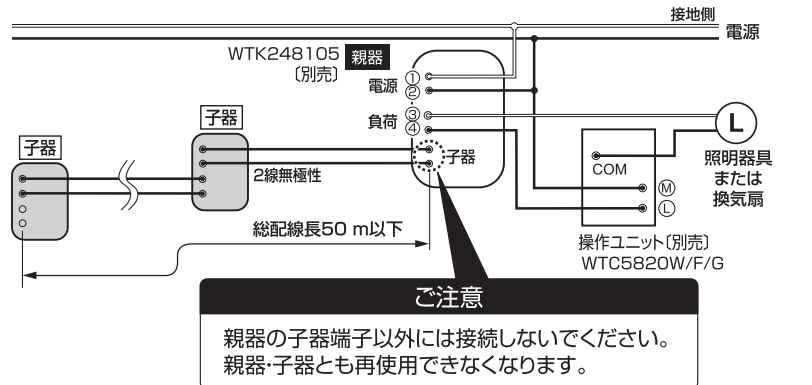
適用電線

φ1.6 φ2 Cu(銅)単線専用

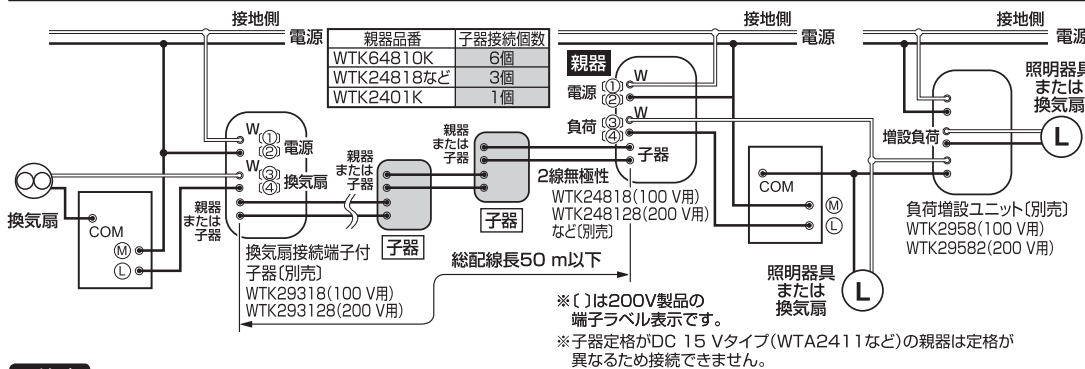
12 $\pm$ $\frac{2}{3}$ mm

警告 発熱のおそれあり
奥まで差し込む

ご注意
親器・子器間の配線も上記適用電線以外は、使用しないでください。
親器・子器間の配線は、線間電圧 DC 12 V ですが、対地電圧 AC 100 V～242 V です。

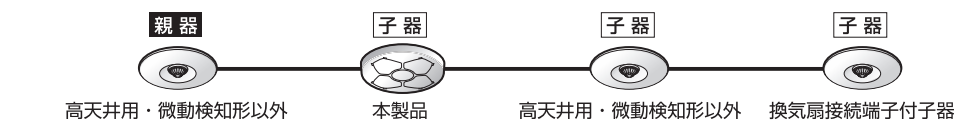


●高天井用以外のセンサと組み合わせて使用する場合



ご注意

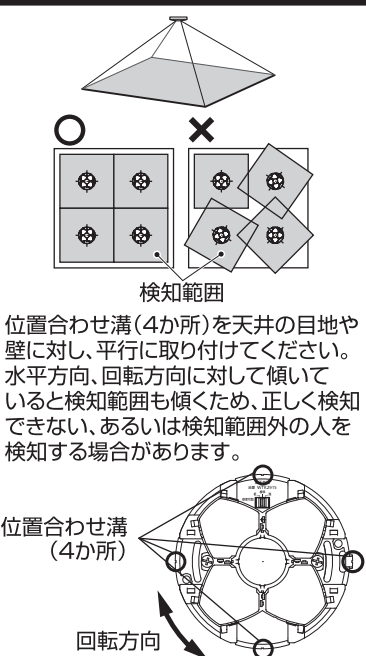
●高天井用・微動検知形以外の親器に、本製品と換気扇接続端子付子器(WTK29318など)を接続した場合、本製品で検知したときは、照明または換気扇の動作時間が親器の設定時間より、約5分長くなります。



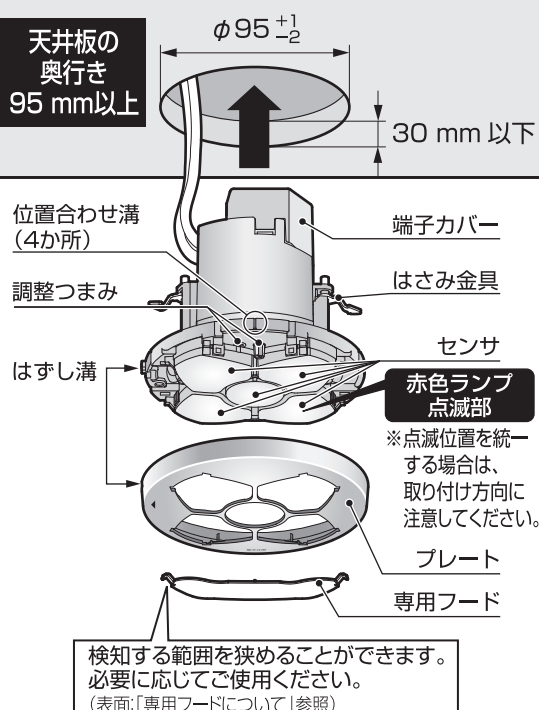
取付方法

※センサ部を強く押さないでください。

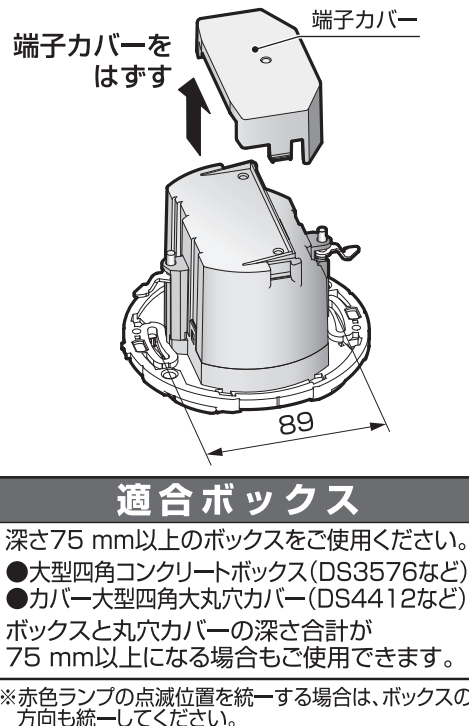
検知範囲が四角のため、製品の取り付け角度に注意してください。



ボックスなし工事の場合



ボックス工事の場合

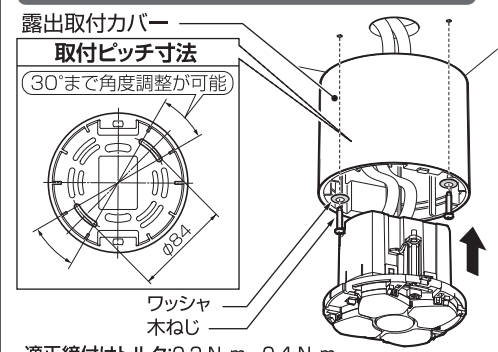


露出取付カバーご使用の場合

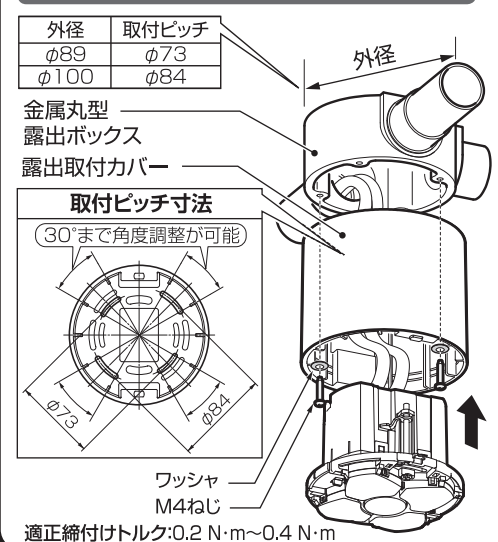
ご注意
露出取付カバー(WTK2092)の施工方向により、検知範囲が制限されます。検知範囲を考慮して、施工してください。

●露出取付カバー取付用に、下記をご準備ください。
ねじ:M4×20 (自攻)…2本、ワッシャ:M4…2個
※ボックスなし工事の場合は、木ねじとなります。

ボックスなし工事(天井面直付)の場合



金属管配線工事(露出タイプ)の場合



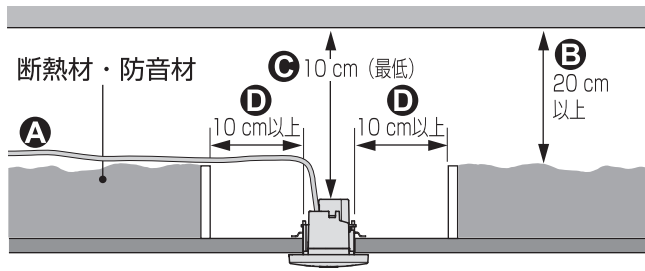
天井裏に断熱材があるとき

■マット工法の場合

従来のボックスなし工事と同様に取り付けてください。
ブローイング工法のような断熱材の切断などの加工は不要です。

■ブローイング工法の場合

- A 電気配線は断熱材・防音材の上側にくるようにしてください。
- B 断熱材・防音材の上側は、最低20 cm以上の空間が必要です。
- C 造営材と器具上部の間は、最低10 cmの空間が必要です。
- D 器具から断熱材・防音材までの距離を10 cm以上離してください。



施工後の設定と動作確認

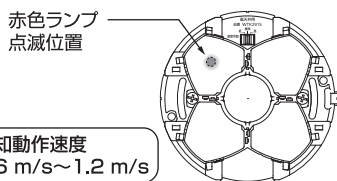
1 検知感度を設定し、動作を確認する

- 1 下表を参考に、感度切替を設定する ※施工前に、設定することをおすすめします。

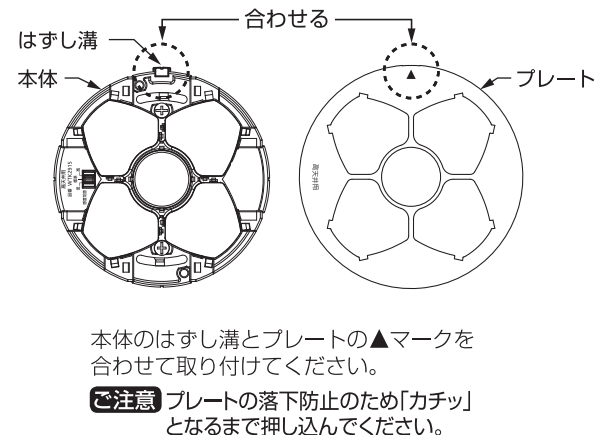
感度切替	床面からの取り付け高さ	感度切替
低	3.0 m～4.0 m	低
標準	4.0 m～8.0 m	標準
高	8.0 m～10.0 m	高

- 2 検知範囲の外から、検知させたいところまで近づきながら、赤色ランプの点滅を確認する

※検知範囲が四角になっているため、製品の取り付け角度に注意してください。
※昼間は赤色ランプが見にくいので、見やすい夕方に行っていただくことをおすすめします。



2 プレートを取り付ける



●注意 プレートの落下防止のため「カチッ」となるまで押し込んでください。

施工後の安全点検と確認

必ず行ってください。

- ☐ 電線は奥まで差し込まれているか
- ☐ センサ部に汚れはないか (汚れは、柔らかい乾いた布で傷をつけないようにふき取ってください。)
- ☐ 結線に間違いはないか